

渡辺ふじお

いつでも現場主義!

杉並区政報告 Vol.34



本当に気になる 首都直下地震 3.11 家族の被災が原点に



災害が続く日本列島。中でも気になるのは、今後30年以内に70%の確率で発生するとされている首都直下地震です。7年前、東日本大震災で福島に住む家族が被災し、津波と原発事故で故郷を追われました。その経験を、杉並区民の命と財産を守るために生かそうと、議会で質問を重ねながら、さまざまな防災減災対策を実現してきました。

渡辺ふじお

災害に負けない街へ

全国初の50mメッシュの地震被害想定(シミュレーション)を公表

延焼危険度の高い木造建築密集地域を抱える杉並区。より現実的な震災対策を進めるためには杉並独自の被害想定が必要だと議会で提案。これを受け、全国初の地域を50m四方に区切った地震被害想定図が10月から公開されました。この「被害の見える化」をもとに、新たな公助の取り組みを進めていきます。



安全安心の街づくり

安全な生活道路へ

全国で陥没事故が多発していることから、区道の路面下空洞調査を提案し、556kmにわたる空洞調査を行った結果、約400カ所以上の異常箇所が見つかり、補修が行われています。



危険なブロック塀の改修

大阪北部地震のブロック塀倒壊による女児の死亡事故を受け、田中区长へ区内の緊急調査と対策実施を要請し、調査の結果不適格とされた10校の改修工事が実施されました。



高齢者や障がい者も安心して暮らせる街へ

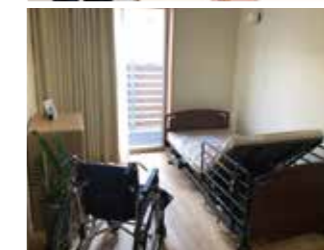
在宅支援体制を拡充

全てのケア24に地域包括ケア推進員を配置しました。在宅医療・生活支援センター(複合施設ウエルファーム杉並)の開設による在宅医療相談窓口の充実と、介護や障がい者支援などの問題を抱えたご家庭への複合的な支援体制を整備しました。



特別養護老人ホームの拡充整備

待機者解消に向け、平成24年度から33年度で1,000床以上の増床が実現します。



元気な高齢者を応援する「長寿応援ポイント制度」を創設

地域貢献活動や、いきがい活動への参加など、高齢者の社会参加を応援する全国初の取り組みが好評です。ポイント付与する登録団体も1,400を超えました。



笑顔でつながる元気な街づくり

杉並区の夏の風物詩「阿佐谷七夕まつり」を主催する地元商店街の方からの要望を受け、阿佐谷駅の発車ベルをジャズバージョンの「たなばたさま」の曲に変更しました。

全区立図書館でパソコンを使用可能にするとともに、区内施設150カ所へWi-Fiフリースポット設置を実現しました。

